

大豆近況 VOL.143

団体会員
一般会員
賛助会員
協賛企業

各位

関係部署にご回覧ください。

令和2年10月7日
一般財団法人 全国豆腐連合会
代表理事 齊藤 靖弘
相談役 郷 和平

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

米国農務省より9月11日に発表された2020/2021年度の世界の大豆生産高予測は、ブラジル産・インド産が増加したものの米国産の減少分がそれを上回ったため、前月比0.2%減の3億6,974万トンとなりました。また、生産高の減少と需要量の増加により、期末在庫も前月比1.9%減の9,359万トンに下方修正されました。

米国産につきましては、単収の減少により2020年産生産量は前回より2.5%減の1億1,738万トンとなりました。また需要量は減少したものの生産高の減少が上回り、期末在庫は大幅に下方修正され前月比24.6%減の1,252万トン(在庫率10.4%)となりました。

また、同省により9月28日に発表された9月27日現在の米国主要生産州の大豆落葉率は74%(前年49%、平年69%)、大豆収穫率は20%(前年6%、平年15%)、作柄概況は良好・優良で64%(前年55%)となっており、作付が大幅に遅れ収穫開始時期に影響した昨年に比べると早いペースで、平年と比べても順調な状態で推移しております。

一方でカナダ産におきましては、カナダ統計局が7月現在でまとめた2020年産カナダ産大豆の生産量予測によりますと収穫面積は減少しておりますが、各主要生産州では単収の増加見込により面積の減少をある程度カバーしているため、前年比1.4%減の600万トンになる見通しとなっております。

また、現地からの情報によりますと、生育は概ね順調に推移しており、早い地域では9月の中旬から収穫作業が始まっているようです。収穫されたものの一部では、2019年産に比べて粒形はやや大きめでタンパクはやや高めという品種もあるとのこと。

10月以降収穫作業が本格化し、悪天候が大豆の収量や品質に大きく影響する時期ですので、引き続き順調に推移することが望まれます。

9月のシカゴ相場は期近限月で9.50ドル付近から始まりました。連日公表された中国による米

国産大豆の買い付け動向により中国向け輸出拡大の期待が広がり、米国中西部での悪天候による減産見通しも支援材料になり値を上げ続け、一時2年数カ月ぶりに10.00ドル台に乗せ10.50ドル付近まで上昇しました。その後は、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に投資家が売りに転じたことや、中国の買い付け公表が途切れたことで対中国向け輸出の拡大期待が薄れたこと、米国産地の順調な天候予報を手掛かりとして下落方向に変わり、現地9月29日現在では9.90ドル付近で推移しております。

また、為替相場は1ドル=105.90円付近で始まりました。米国の好調な経済指標により米国の雇用回復鈍化の懸念が和らいだことでドル買いが優勢に動き一時106円台で推移していたものの、米連邦準備理事会(FRB)が金融緩和の長期化を示唆したことにより低金利通貨の円を買う動きが優勢となり104円付近まで円高が進みました。その後欧州での新型コロナウイルス感染の再拡大懸念による欧州株安を受けたドル買いが対円売にも波及したこともあり円安が進み、9月30日現在では1ドル=105.50円付近で推移しております。

○国産大豆

令和2年産国産大豆の生育状況につきましては、北海道産においては9月中旬の雨がちであった天候が気になるものの概ね順調に推移しており、10月から本格的に収穫作業が開始される様子です。本州につきましては、東北地方/新潟:秋田・山形の一部で豪雨による浸水被害があったものの概ね順調に推移、北関東:8月以降概ね順調に推移しているものの播種遅れが目立ったためその影響が心配される、東海:7月の大雨により播種開始が遅れたものの8月以降は概ね順調に推移、北陸:7月の大雨の影響で一部では冠水や播種し直しの圃場がある様子、滋賀:北陸に近い北部地域で7月の大雨の影響が出てしまっているようだが8月以降は概ね順調に推移、といった状況であるとのこと。また九州につきましても7月の悪天候により播種開始が遅れたものの、8月以降は概ね順調に推移し、度重なる台風により一部で塩害や倒伏の被害があるようですが、影響は限定的な様子です。

今後は各地で収穫作業が本格的に始まってくる時期ですので、順調な天候に恵まれることを望みます。

以上